

1. HRクラブと協力関係構築で合意

今日は、Human Resource Club（通称：HRクラブ）のバヤルマグナイ会長とドゥーリーマー役員をお訪ねしました。HRクラブは加盟企業の人事担当者の育成及び人事ネットワークの構築を通じた企業開発を目的として2012年に設立され、1万5000社が加盟しています。労働社会保障省や障害者開発庁と連携し、若手や障害者の就労促進に協力してきたそうです。



HR Clubと集合写真

DPUB2で障害者就労を促進するにあたり、企業啓発は最も重要な活動の一つです。今回の面談を通じ、HRクラブと企業啓発、ジョブコーチ就労支援サービスの普及、障害者の職業準備訓練など、様々な面で協力できる可能性を感じました。会長によれば、障害者就労を進めたい企業は意外と多いそうですが、これまで適切に支援できる人や組織が少なかったそうです。DPUB2が、こうした企業のニーズに応えられればと思いました。

2. 第一回ジョブコーチ入門セミナーを成功裏に開催



会場の様子

3月28日と29日の2日間にわたり、「第1回ジョブコーチ入門セミナー」が開催されました。

このセミナーには、事前にNGOや企業などから98名の応募があり、12名の参加者が決定されました。さらに、労働社会保障省、障害者開発庁などの政府機関からも12名が参加しました。

1日目は、労働社会保障省のトンガラグタミル局長が開会の挨拶を行った後、DPUB2の千葉寿夫チーフアドバイザーから、セミナーの目的やプロジェクトについて簡単な紹介がありました。

ジョブコーチの日本人専門家3人は、あいにくコロナ禍の影響でモンゴルに来ることができなかったため、ジョブコーチの基本的な概念や、サービスなどについて、オンラインで4つの講義を行いました。参加者の一人、ミッシェル・グループ総務人事部長のトゥブシントグスさんは、「講師の方々の話はとても興味深かった。障害者を雇用する上で大変参考になる知識を詳しく学べて満足している」と話し、「ジョブコーチになるには、多くの経験が必要であることがよくわかった」と述べました。

また、2日目の3月29日は、ジョブコーチが実際にどう機能し、どのような活動を行うのか、参加者全員がロールプレイを通して実践的に学びました。

午前中は、24名の参加者が4つのグループに分かれ、自分がジョブコーチになったつもりで、企業に障害者雇用を働きかけるための交渉にあたりました。

午後は、作業者に対する体系的な指導方法の一環として、システムティック・インストラクション（分かりやすく教える技術）のロールプレイを行いました。これは、作業工程や使用する道具の呼び方などを共有するとともに、指示の出し方や賞賛、修正の仕方など、支援を行う上での基本的なルールを意識し、分かりやすく伝えるために必要となる基本的なルールを共有するために行われたものです。ロールプレイの後は、日本の専門家を交え、参加者全員で自分たちの日頃の活動を振り返り、気づきを共有しました。

前のページの続き



グループワークの様子



ロールプレイの様子

セミナー終了後、DPUB2プロジェクトの千葉寿夫チーフアドバイザーが、モンゴルでジョブコーチ就労支援サービスを定着させるために求められる政府や企業、NGOの役割と義務について、改めて説明しました。

参加者を代表して、職業訓練学校であるソノールセンターのバヤンズル所長は、プロジェクトチーム、特に日本の専門家に深い感謝の意を表すとともに、労働社会保障省に対し、ジョブコーチ就労支援サービスの実施に必要な資金支援を要望しました。

今回、セミナーの運営にあたったDPUB2のメンバーは、参加者が皆、積極的に学びに参加し、充実した時間を過ごすことができた様子を見て、とても嬉しく思っています。



閉会式の集合写真



dpub.jica@gmail.com



United Nation's Street-5, Chingeltei district 4th khoroo, Ulaanbaatar, Mongolia-15160
Ministry of Labor and Social Protection



<https://www.facebook.com/jicadpub1and2>



<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/030/index.html>

